

岡山県感染症週報 2025 年第 26 週 (6 月 23 日～6 月 29 日)

◆2025 年 第 26 週 (6 / 23 ～ 6 / 29) の感染症発生動向 (届出数)

■全数把握感染症の発生状況 (第 26 週届出分)

第 24 週 5 類感染症 梅毒 1 名 (30 代 女)

百日咳 3 名 (小学生 男 1・女 1、30 代 女 1)

第 25 週 2 類感染症 結核 1 名 (90 代 女)

5 類感染症 百日咳 18 名 (幼児 男 1・女 2、小学生 男 6・女 1、中学生 男 1・女 4、
50 代 男 1・女 1、70 代 女 1)

第 26 週 2 類感染症 結核 4 名 (30 代 女 1、60 代 女 1、70 代 男 1、90 代 女 1)

3 類感染症 腸管出血性大腸菌感染症 2 名 (O103:20 代 男 1、O157:40 代 女 1)

4 類感染症 日本紅斑熱 4 名 (40 代 女 1、60 代 男 1、70 代 男 1、80 代 女 1)

レジオネラ症 4 名 (60 代 男 1、70 代 男 1、80 代 男 2)

5 類感染症 カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症 1 名 (80 代 女)

梅毒 8 名 (20 代 女 3、30 代 男 3、50 代 男 1・女 1)

百日咳 94 名 (乳児 男 1、幼児 男 3・女 1、小学生 男 24・女 17、

中学生 男 8・女 9、高校生 男 5、20 代 男 3・女 1、

30 代 男 2・女 3、40 代 男 4・女 3、50 代 男 2・女 3、

60 代 男 1・女 1、70 代 男 1・女 1、80 代 女 1)

食中毒注意報
発令中!



© 岡山県「ももっち」

■定点把握感染症の発生状況

患者報告医療機関数: ARI 定点 50、小児科定点 28、眼科定点 12、STD 定点 18、基幹定点 5

○新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) は、県全体で 54 名 (定点あたり 1.08 人) の報告がありました。

○急性呼吸器感染症 (ARI) は、県全体で 2,457 名 (定点あたり 49.14 人) の報告がありました。

○伝染性紅斑およびヘルパンギーナの報告数が多くなっています。

1. [新型コロナウイルス感染症 \(COVID-19\)](#) は、県全体で 54 名の報告があり、前週とほぼ同数でした (定点あたり 1.16 → 1.08 人)。地域別では、倉敷市 (1.67 人)、備中地域 (1.60 人)、備北地域 (1.50 人) の順で定点あたり報告数が多くなっています。年代別では、20 代および 70 代以上で前週から増加しました。基本的な感染防止策 (効果的な場面でのマスク着用、手洗い等の手指衛生、換気、3 密 (密閉・密集・密接) の回避、健康的な日常生活、体調不良時の備え) に留意し、自主的な判断により実施しましょう。詳しくは、岡山県感染症情報センターホームページ [『新型コロナウイルス感染症 \(COVID-19\) 情報』](#) をご覧ください。
2. [急性呼吸器感染症 \(ARI\)](#) は、県全体で 2,457 名の報告があり、前週とほぼ同数でした (定点あたり 49.38 → 49.14 人)。詳しくは、「[★急性呼吸器感染症 \(ARI\) 情報](#)」および岡山県感染症情報センターホームページ [『急性呼吸器感染症 \(ARI\) 情報』](#) をご覧ください。
3. [日本紅斑熱](#) は、2025 年第 26 週に 4 名の報告があり、2025 年の累計報告数は 9 名となりました (2024 年の同時期: 7 名)。ダニが媒介する感染症として、他に[重症熱性血小板減少症候群 \(SFTS\)](#) や[つつが虫病](#) などがあります。これらは、病原体を保有するツツガムシまたはマダニに刺咬されることで感染します。また、SFTS に関してはイヌやネコからの感染も報告されています。ダニに刺咬されないための予防対策等については[コラム「ダニが媒介する感染症に注意しましょう！」](#) をご覧ください。
4. [梅毒](#) は、2025 年第 26 週に 8 名の報告があり、2025 年の累計報告数は 136 名となりました (2024 年の同時期: 174 名)。詳しくは、岡山県感染症情報センターホームページ [『梅毒について』](#) をご覧ください。
5. [百日咳](#) は、2025 年第 26 週に 94 名の報告があり、2025 年の累計報告数は全数把握による統計を開始した 2018 年以降最多の 1,184 名となりました。詳しくは「[今週の注目感染症①](#)」をご覧ください。
6. [伝染性紅斑](#) は、県全体で 25 名の報告があり、前週から減少しました (定点あたり 1.25 → 0.89 人)。詳しくは「[今週の注目感染症②](#)」をご覧ください。

7. ヘルパンギーナは、県全体で42名の報告があり、前週から増加しました（定点あたり0.96 → 1.50人）。この感染症は、夏かぜの一種であり、例年7～8月頃が流行のピークとなります。特異的な治療法はなく、症状に応じた対症療法が行われます。病気の特徴、予防法は次をご覧ください。

→ 『ヘルパンギーナ』（国立健康危機管理研究機構）

流行の推移

疾病名	定点あたり 報告数		推移	疾病名	定点あたり 報告数		推移
	前週	今週			前週	今週	
インフルエンザ	0.22	0.10	↓	突発性発しん	0.29	0.36	↑
COVID-19	1.16	1.08	→	ヘルパンギーナ	0.96	1.50	↑
急性呼吸器感染症(ARI)	49.38	49.14	→	流行性耳下腺炎	0.14	0.11	↓
RSウイルス感染症	0.46	0.46	→	急性出血性結膜炎	0.00	0.08	↑
咽頭結膜熱	0.32	0.36	↑	流行性角結膜炎	0.08	0.08	→
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	1.57	1.11	↓	細菌性髄膜炎	0.00	0.00	→
感染性胃腸炎	5.71	5.57	→	無菌性髄膜炎	0.00	0.00	→
水痘	0.25	0.18	↓	マイコプラズマ肺炎	0.20	0.80	↑
手足口病	0.54	0.61	↑	クラミジア肺炎	0.00	0.00	→
伝染性紅斑	1.25	0.89	↓	感染性胃腸炎(ロタウイルス)	0.00	0.00	→

【記号の説明】 前週からの推移

↑ : 増加

→ : ほぼ増減なし

↓ : 減少

増加・減少 : 前週比10%以上の増減

◆◆◆ 食中毒予防の3原則 ◆◆◆

岡山県は食中毒注意報を発令中です！

次の3原則を心がけ、予防に努めましょう。

➤ 「清潔」（菌をつけない）

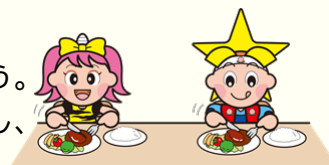
- ・調理前、食事前、トイレ後には、石けんと流水で手をよく洗いましょう。
- ・台所は、整理整頓し、常に清潔にしましょう。
- ・まな板、ふきん等の調理器具は、十分に洗浄・消毒を行いましょう。
- ・焼肉をする時は、生の肉をつかむはしと食べるはしを使い分けましょう。

➤ 「迅速・冷却」（菌を増やさない）

- ・生鮮食品や調理後の食品は、できるだけ早く食べましょう。
- ・生鮮食品や調理後の食品は、10℃以下で保存しましょう。
（生食用鮮魚介類は、4℃以下で保存するよう努めましょう。）

➤ 「加熱」（菌をやっつける）

- ・加熱して食べる食品は、中心部まで十分に火を通しましょう。
- ・特に、食肉は中心部の色が完全に変わるまで十分に火を通し、生食は避けましょう。



© 岡山県「ももっち・うらっち」

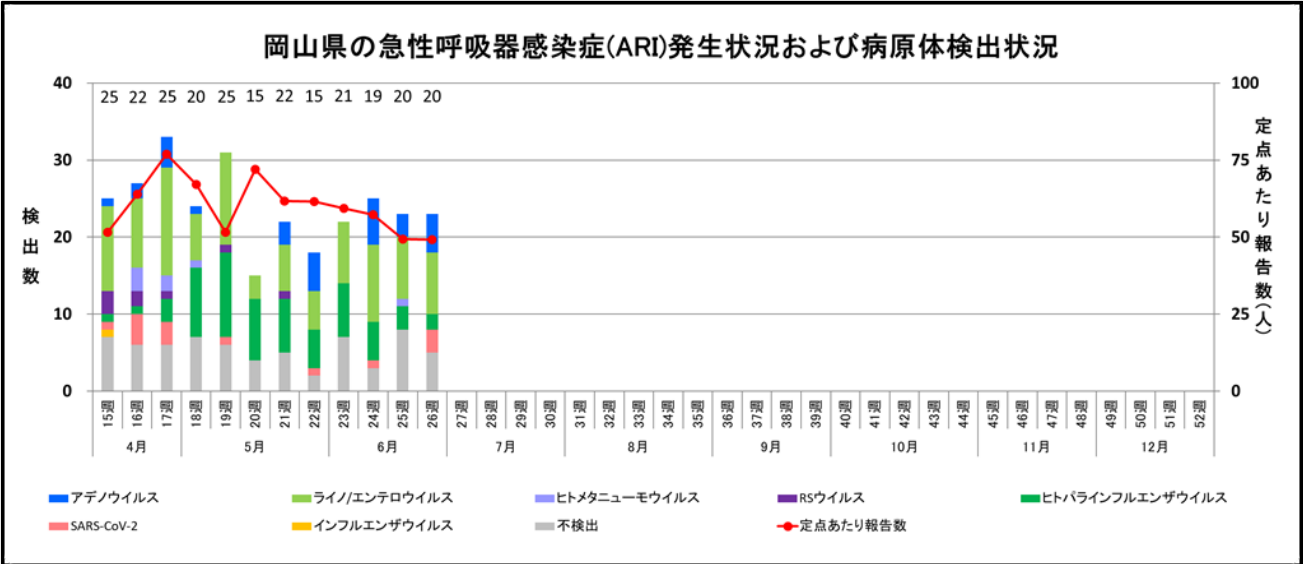
[食中毒予防の3原則（岡山県生活衛生課）](#)

[家庭でできる食中毒予防の6つのポイント（厚生労働省）](#)

[家庭でできる食中毒予防の6つのポイント（厚生労働省作成チラシ）](#)

★急性呼吸器感染症（ARI）情報

1. 岡山県の流行状況（第 26 週（ 6 / 23 ～ 6 / 29 ））



※定点把握対象となった第 15 週から表示しています。
※病原体の検出については検体を採取した週に計上しています。
※1 検体から複数のウイルスが検出された場合はそれぞれ計上しています。
※グラフ上部の数字は検体数を示しています。
※急性呼吸器感染症（ARI）定点医療機関数：50 医療機関（内科定点 22、小児科定点 28）
※急性呼吸器感染症（ARI）病原体定点医療機関数：5 医療機関（内科定点 2、小児科定点 3）

急性呼吸器感染症（ARI）は、県全体で 2,457 名の報告があり、前週とほぼ同数でした（定点あたり 49.38→49.14 人）。地域別では、備中地域（98.00 人）、岡山市（53.22 人）、倉敷市（52.83 人）の順で定点あたり報告数が多くなっています。基本的な感染防止策（換気や手洗い・手指消毒、マスクの着用を含めた咳エチケットなど）に留意し、感染対策に努めましょう。

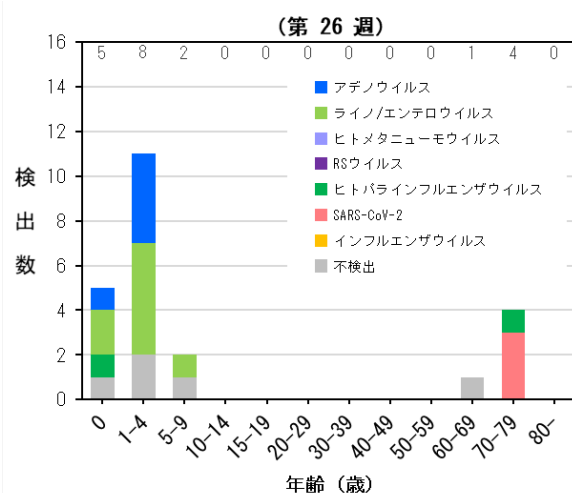
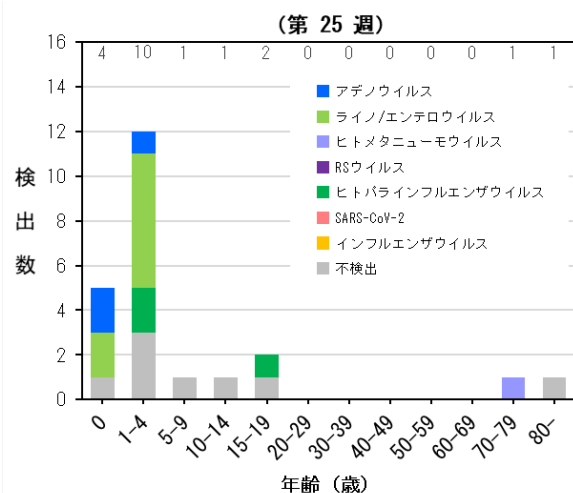
2025 年第 25 週および第 26 週に採取された検体から検出された病原体は、33 株でした（詳細は下表参照）。

【第 25 週および第 26 週 岡山県環境保健センターにおける病原体検出状況】

	第 25 週	第 26 週	計*
検体数（うち不検出数）	20(8)	20(5)	40(13)
インフルエンザウイルス	0	0	0
SARS-CoV-2	0	3	3
ヒトパラインフルエンザウイルス	3	2	5
RS ウイルス	0	0	0
ヒトメタニューモウイルス	1	0	1
ライノ/エンテロウイルス	8	8	16
アデノウイルス	3	5	8
計	15	18	33

* 重複あり

○年齢別病原体検出状況



※病原体の検出については検体を採取した週に計上しています。

※1 検体から複数のウイルスが検出された場合はそれぞれ計上しています。

※グラフ上部の数字は各年齢別の検体数を示しています。

※急性呼吸器感染症 (ARI) 病原体定点医療機関数: 5 医療機関 (内科定点 2、小児科定点 3)

2. 新型コロナウイルスゲノム解析結果

ゲノム解析の状況は以下のホームページをご覧ください。

○岡山県の状況

→ [新型コロナウイルスのゲノム解析 \(岡山県感染症情報センター\)](#)

○全国の状況

→ [SARS-CoV-2 変異株について \(国立健康危機管理研究機構\)](#)

ダニが媒介する感染症に注意しましょう！

野外にいる吸血性のダニとして、マダニやツツガムシなどが知られており、これらのダニの中には、**日本紅斑熱、重症熱性血小板減少症候群 (SFTS)*、つつが虫病**などを引き起こす病原体を保有しているものがあります。

ダニは、春から秋 (3 月～11 月) にかけて活発に活動します。

野外で作業する際は、肌の露出を少なくし、こまめに虫除け剤 (マダニ、ツツガムシの忌避を効能としているもの) を噴霧するなどし、ダニに刺咬されないようにしましょう。

また、野外での作業後は、シャワーや入浴を行い、ダニが付いていないかチェックをしましょう。

※SFTS は SFTS ウイルスに感染したイヌやネコからの感染も報告されています。

体調不良のペットや野生動物との接触は避けましょう。

★★ くわしくは、こちらをご覧ください ★★

⇒ [日本紅斑熱 \(国立健康危機管理研究機構\)](#)

⇒ [重症熱性血小板減少症候群 \(SFTS\) に関する Q&A \(厚生労働省\)](#)

⇒ [ツツガムシ病とは \(国立健康危機管理研究機構\)](#)

⇒ [マダニ対策、今できること \(国立健康危機管理研究機構\)](#)



吸血後の
フタゲチマダニ♀



ヤマアラシチマダニ

岡山県環境保健センター
ウイルス科 撮影画像

今週の注目感染症①

★百日咳

●感染経路および症状

百日咳は、百日咳菌による急性の気道感染症で、一年を通じて発生がみられます。感染経路は患者の咳などによる飛沫感染や接触感染です。

感染後、通常 7～10 日間程度の潜伏期を経て発症し、風邪症状で始まり、次第に咳の回数が増えます（カタル期：約 2 週間）。

咳は次第に発作性けいれん性の咳（けい咳）となり、発作をくり返します。おう吐や顔面浮腫を起こしたり、乳児期早期では特徴的な咳がなく、無呼吸発作により、重篤となることがあります。合併症としては肺炎や脳症などもあり特に乳児では注意が必要です（けい咳期：2～3 週間）。

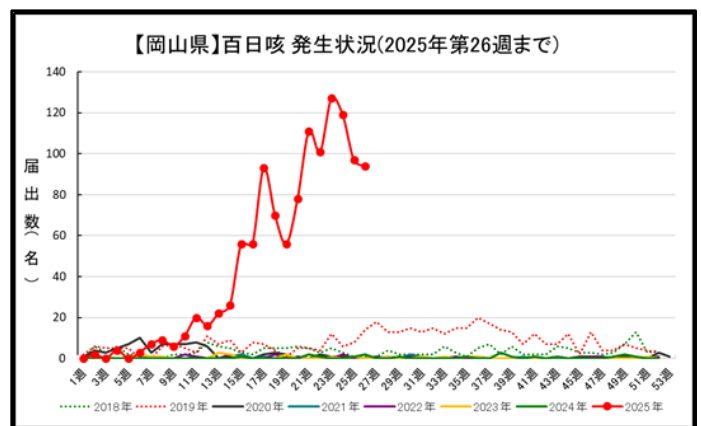
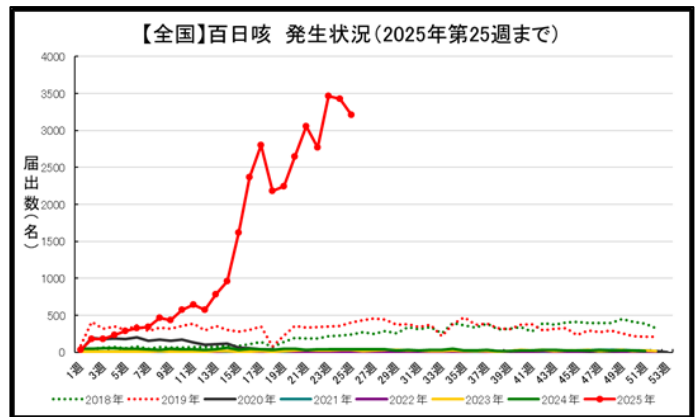
全経過 2～3 か月で次第に回復していきませんが、時折発作性の咳が出ることがあります（回復期）。

成人では咳が長期にわたって続きますが、典型的な発作性の咳がでることなく回復するため、見逃されやすくワクチン未接種の新生児・乳児に対する感染源として注意が必要です。

[百日咳（厚生労働省）](#)

[百日咳にご注意下さい（厚生労働省）](#)

[百日咳（国立健康危機管理研究機構）](#)



●治療・予防方法

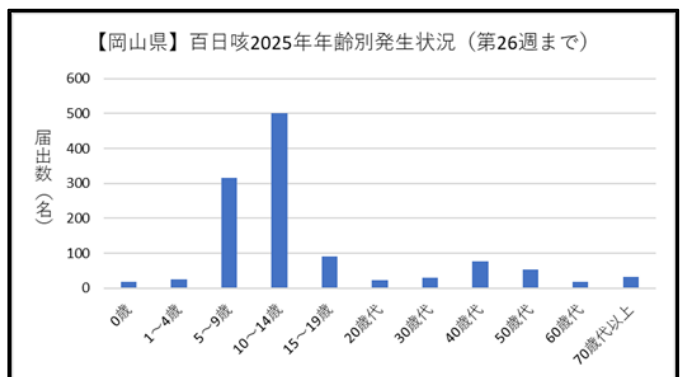
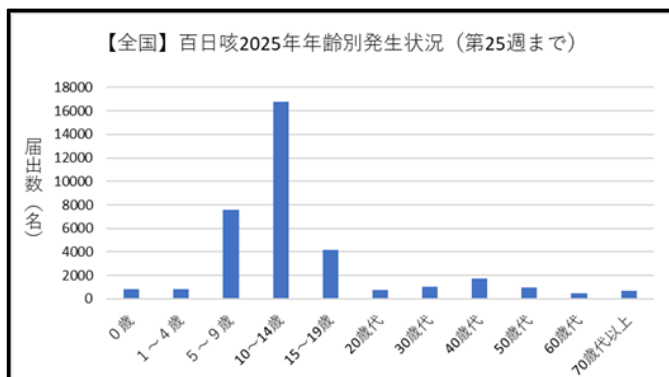
治療は生後 6 か月以上の患者にはマクロライド系の抗菌薬が用いられます。また、咳が激しい場合には、咳止め薬も用いられることがあります。

予防法は、予防接種のほか、感染者との接触を避ける、流行時のうがいや手洗い、手指の消毒などです。感染時は『咳エチケット』を心がけ、感染拡大防止に努めましょう。また、風邪と見分けがつかないまま、感染を広げる可能性があるため、咳が続く場合は早めに医療機関を受診しましょう。

●発生状況

全国では第 25 週に 3,211 名の届出があり、2025 年の累計届出数は 35,810 名となっています（2025 年 6 月 25 日時点）。年齢別では、5～14 歳で多く発生しています。

岡山県では第 26 週に 94 名の届出があり、2025 年の累計届出数は 1,184 名となっています（2025 年 7 月 2 日時点）。年齢別では、全国と同様に 5～14 歳で多く発生しています。



今週の注目感染症②

★伝染性紅斑

●感染経路および症状

伝染性紅斑は、ヒトパルボウイルス B19 による感染症で、小児を中心にみられる流行性発しん性疾患です。両頬に赤い発しん（紅斑）が出ることから「リンゴ病」とも呼ばれます。感染経路は患者の咳などによる飛沫感染や接触感染です。

約 10～20 日の潜伏期間の後、両頬に蝶の羽のような境界鮮明な赤い発しん（紅斑）が現れます。続いて、体や手・足に網目状やレース状の発しんが広がります。多くの場合、頬に発しんが出現する 7～10 日くらい前に、微熱や風邪の症状などが見られ、この時期にウイルスの排出が最も多くなりますが、発しんが現れたときにはウイルスの排出はほとんどなく、感染力もほぼ消失しています。その後これらの発しんは一週間程度で消失しますが、中には長引いたり、発しんが再び出現することがあります。

成人では関節痛を伴う関節炎や頭痛などの症状が見られることもあります。ほとんどは合併症を起こすことなく自然治癒します。

[伝染性紅斑（厚生労働省）](#)

[伝染性紅斑（国立健康危機管理研究機構）](#)

●治療・予防方法

伝染性紅斑には特別な治療法はなく、対症療法が行われます。

ヒトパルボウイルス B19 は、紅斑が出ている時期にはほとんど排出されていません。そのため、予防法は初期症状である風邪症状がある方との接触を避ける、うがいや手洗い、手指の消毒を行うなどです。風邪症状のある人は『咳エチケット』を心がけ、感染拡大防止に努めましょう。

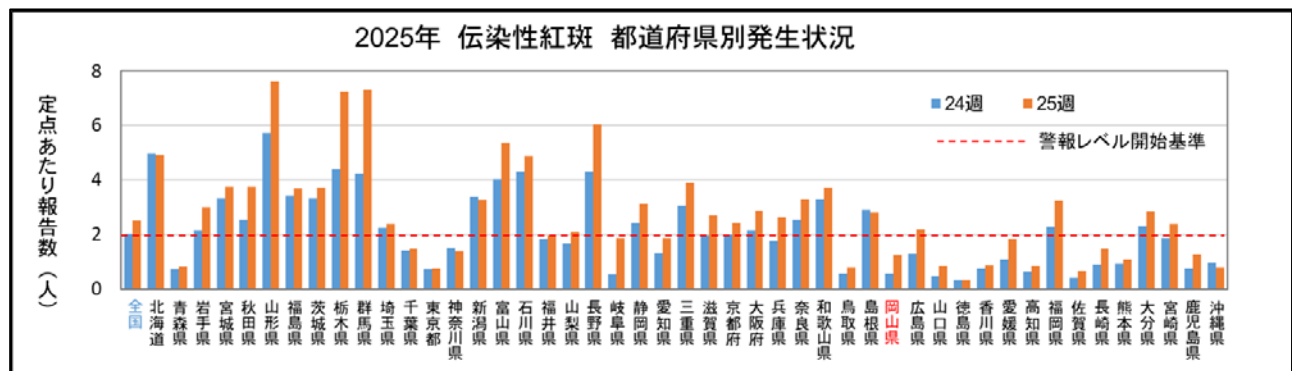
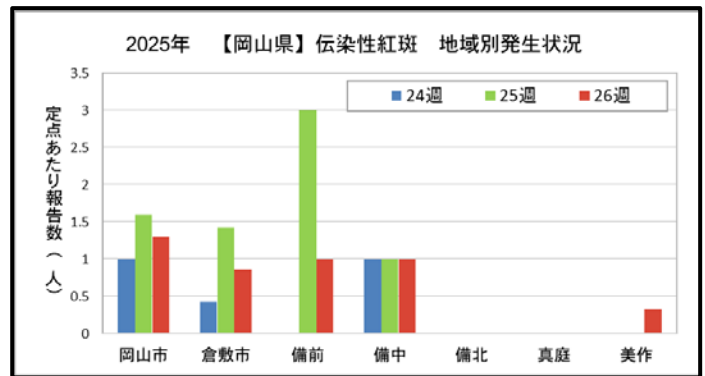
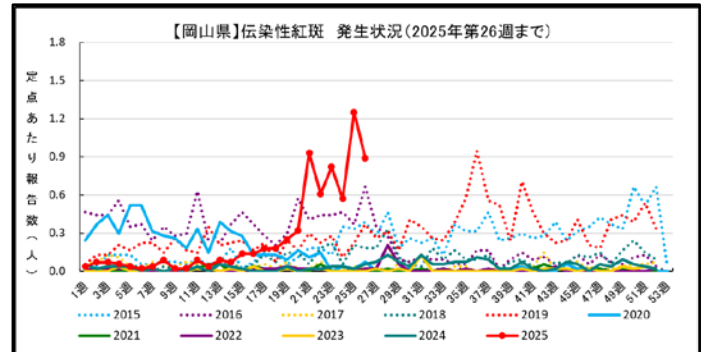
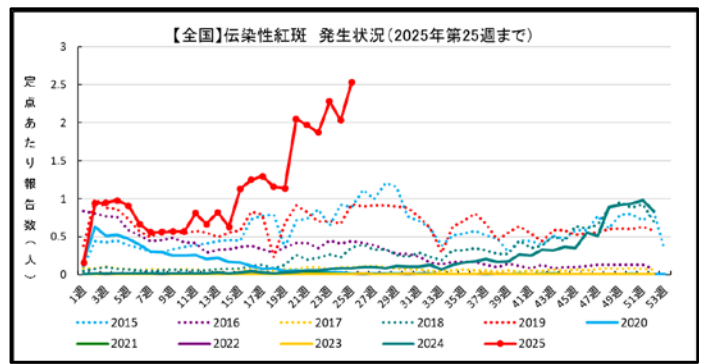
●妊娠中又は妊娠の可能性がある方へ

これまでヒトパルボウイルス B19 に感染したことの無い女性が妊娠中に感染した場合、胎児にも感染し、胎児水腫などの重篤な状態や流産のリスクとなる可能性があります。熱や倦怠感が出現した後に発しんが出る等、伝染性紅斑を疑う症状がある場合は医療機関に相談しましょう。また、周囲に伝染性紅斑の人がいる場合は、症状が無い場合も妊婦検診の際に医師に伝えてください。

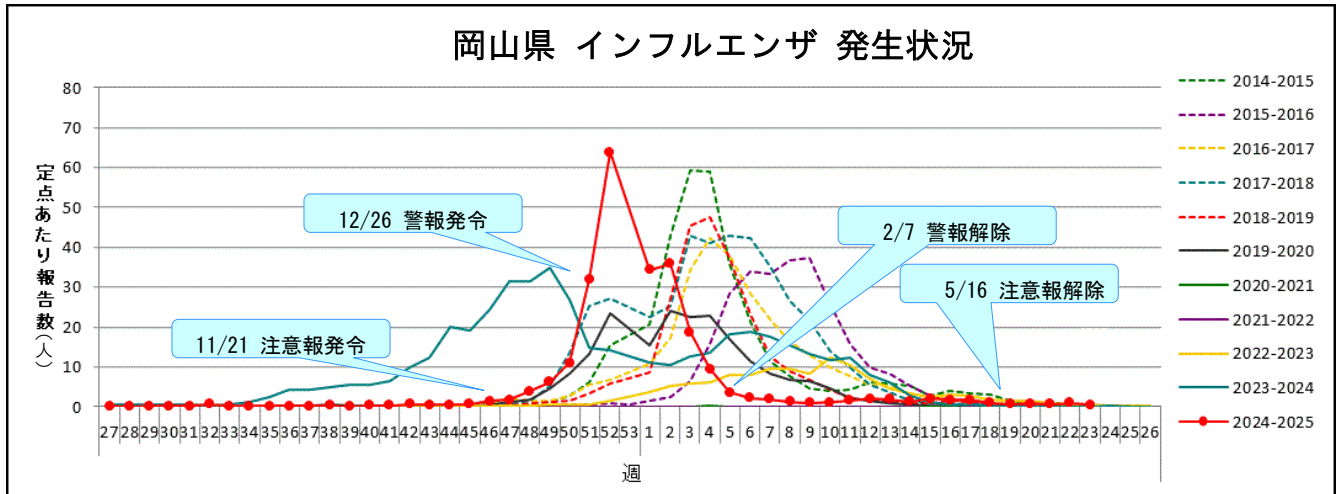
●発生状況

全国の第 25 週の定点あたり報告数は第 24 週から増加しました（2.03→2.53 人）。都道府県別では、山形県（7.62 人）、群馬県（7.32 人）、栃木県（7.26 人）の順に定点あたり報告数が多く、28 道府県で警報レベルの 2.00 人を超えています。

岡山県の第 26 週の定点あたり報告数は前週から減少しました（1.25→0.89 人）。地域別では、岡山市（1.30 人）、備前地域および備中地域（1.00 人）の順で定点あたり報告数が多くなっています。



岡山県 インフルエンザ発生状況 (2024/25 年シーズンのまとめ)



※インフルエンザは、通常、秋から翌年の春にかけて流行するため、第 27 週 ～ 翌年第 26 週で、グラフを作成しています。

※2025 年第 15 週以降定点がインフルエンザ/COVID-19 定点 (84 医療機関) から ARI 定点 (50 医療機関) になりました。

2024/25 年シーズン(2024/9/2～2025/8/31)のうち、2025 年 6 月 8 日までの岡山県におけるインフルエンザの発生動向をまとめました。

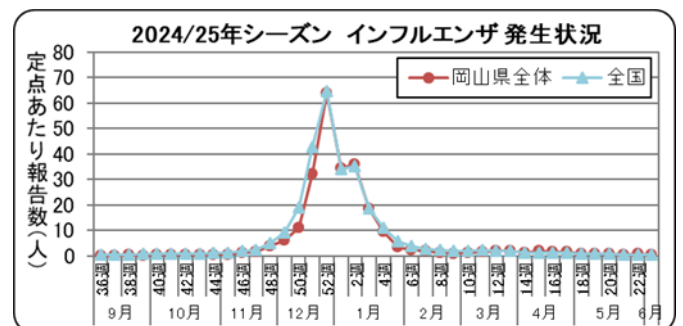
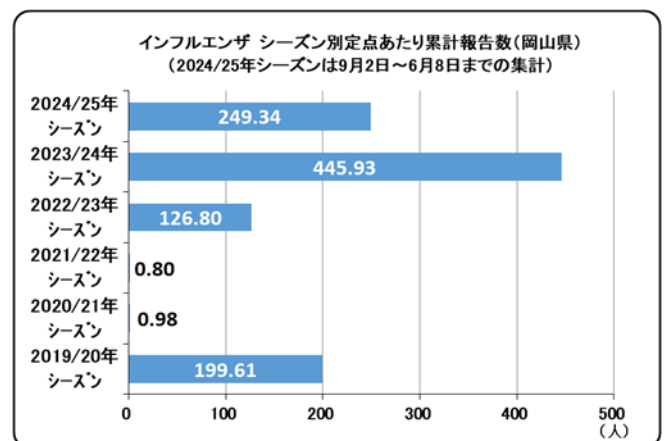
今シーズン、岡山県の定点あたり報告数の累計は、249.34 人であり、過去 10 シーズンで 5 番目に多い報告数でしたが、第 52 週(12/23～12/29)には、63.76 人と過去 10 年で最多となり、21 週間の長期間にわたって 10.00 人以上の流行が続いた昨シーズン(2023/24 年シーズン)とは対照的に急峻なピークを示す流行が認められました。

昨シーズンは、第 16 週(4/15～4/21)に定点あたり 0.55 人、第 17 週(4/22～4/28)に 0.40 人と、2 週連続して 1.00 人を下回ったため 5 月 7 日に「インフルエンザ注意報」を解除しましたが、以降も途切れることなく、1.00 人を下回る水準で患者の発生が続き(最少で第 23 週(6/3～6/9)の 0.02 人)、今シーズンに入りました。

今シーズンに入った後も患者の発生は継続し、第 46 週(11/11～11/17)には定点あたり 1.37 人となり、岡山県の注意報発令基準である 1.00 人を上回ったことから、11 月 21 日に「インフルエンザ注意報」を発令しました。過去 10 シーズンと比較すると、2 番目に早い流行期入りであり、その後、急速に流行が拡大していきました。

第 51 週(12/16～12/22)には定点あたり 31.95 人となり、警報発令基準の 30.00 人を上回ったため、12 月 26 日に「インフルエンザ警報」を発令し、第 52 週(12/23～12/29)には 63.76 人と過去 10 年間で最多となったことから、更なる注意喚起をはかりました。

定点あたり報告数は、第 52 週(12/23～12/29)にピーク(63.76 人)を迎え、その後減少に転じました。第 4 週(1/20～



※インフルエンザシーズンは、第 36 週から翌年第 35 週までを 1 シーズンとして集計しています。

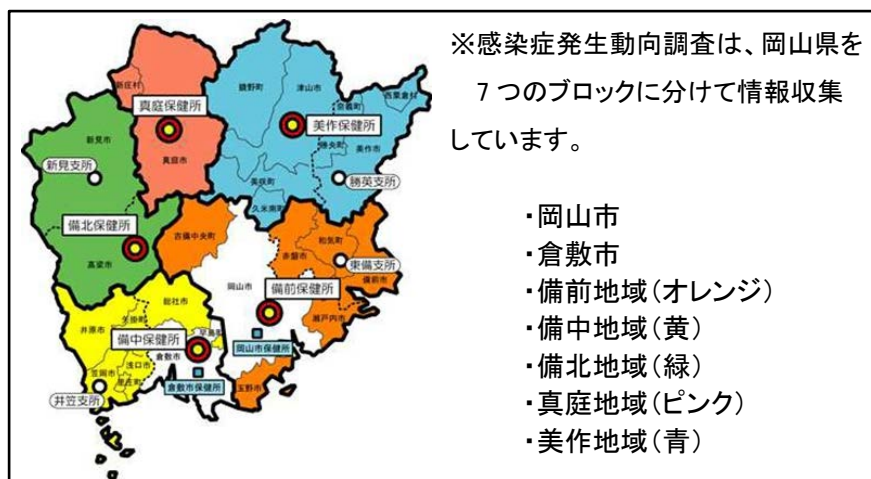
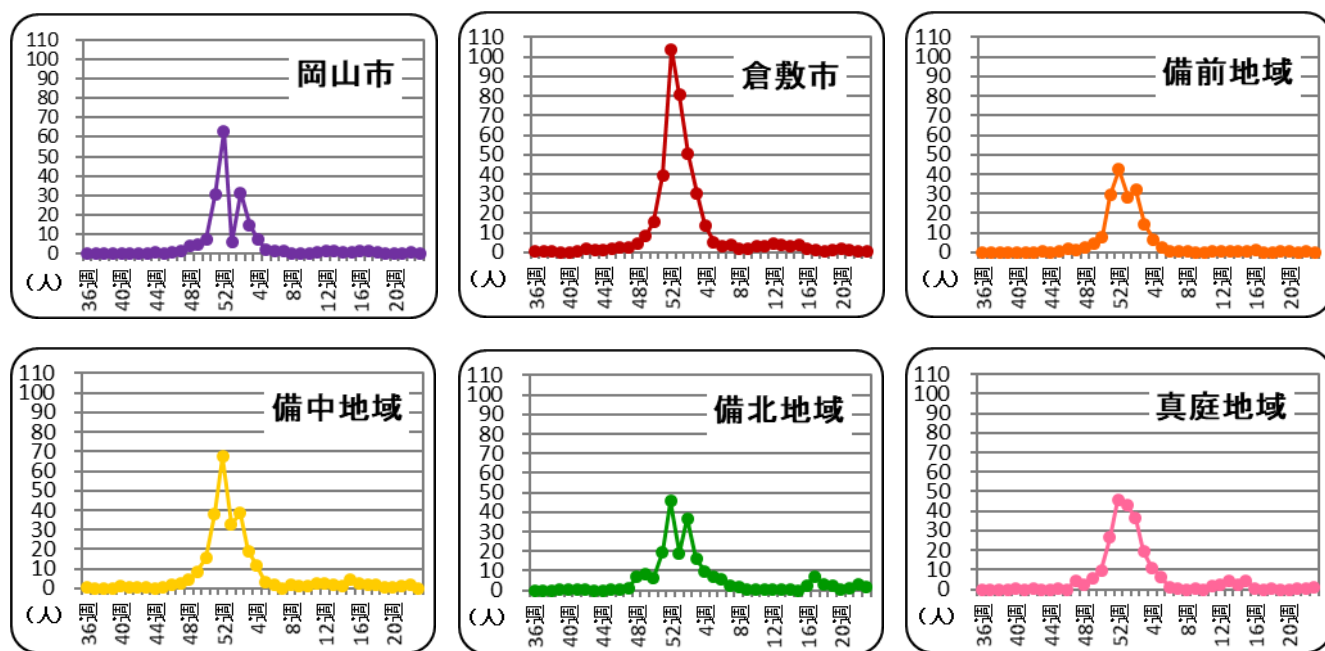
1/26)には9.42人、第5週(1/27～2/2)には3.54人と、2週連続して10.00人を下回ったため、2月7日に警報から注意報に切り替えました。その後も減少傾向で推移し、第18週(4/28～5/4)には0.92人、第19週(5/5～5/11)には0.70人と、2週連続して1.00人を下回ったため、5月16日をもって県内に発令していた「インフルエンザ注意報」を解除しました。

全国では、第44週(10/28～11/3)に定点あたり1.04人となり、全国的な流行の指標である1.00人を上回り、流行シーズンに入りました。第52週(12/23～12/29)には64.43人となり、流行のピークを迎えました。その後は減少に転じ、報告数は若干の増減をしながら減少傾向で推移し、第22週(5/26～6/1)には0.44人(2025年6月4日現在)まで減少しました。

今シーズン、岡山県は全国と同様な流行の推移が見られました。

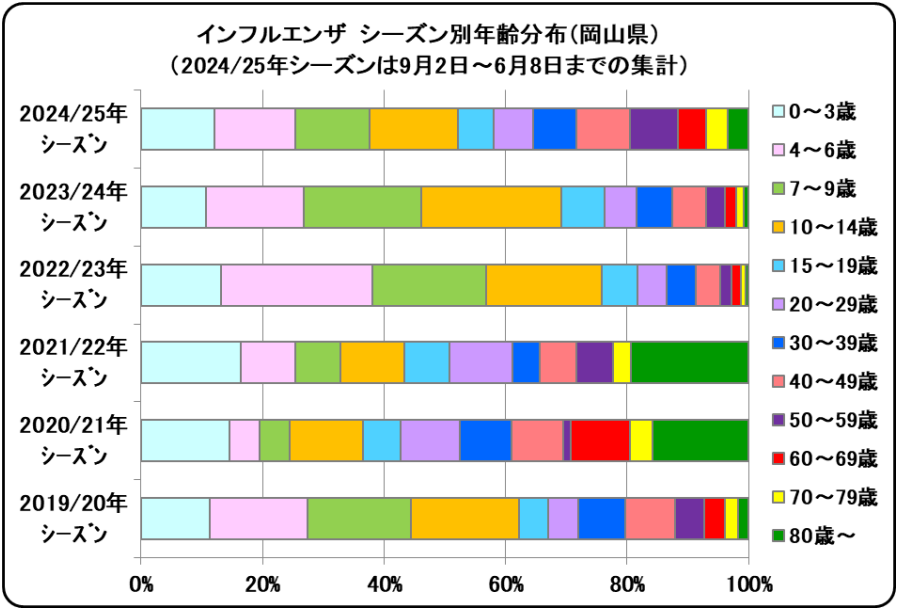
1. 地域別発生状況

地域別で見ると、シーズン当初から岡山市、倉敷市および備中地域では患者が報告され、全県的に流行が拡大してきました。第46週(11/11～11/17)には流行開始の指標値(定点あたり1.00人)を超え、県内全域で流行期に入りました。その後、患者は増加を続け、全ての地域で第52週(12/23～12/29)にピークを迎えました。各地域のピーク時の報告数は、岡山市63.14人、倉敷市103.88人、備前地域42.47人、備中地域67.58人、備北地域45.50人、真庭地域46.00人、美作地域44.60人でした。その後は各地域とも減少に転じ、若干の増減を繰り返しながら減少しました。



2. 年齢別発生状況

年齢別割合は、10～14 歳 (14.6%)、4～6 歳 (13.3%)、0～3 歳 (12.1%) の順で多くなりました。

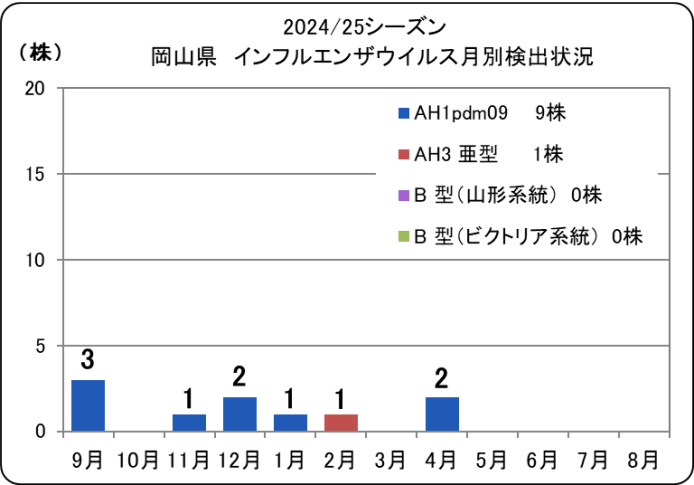
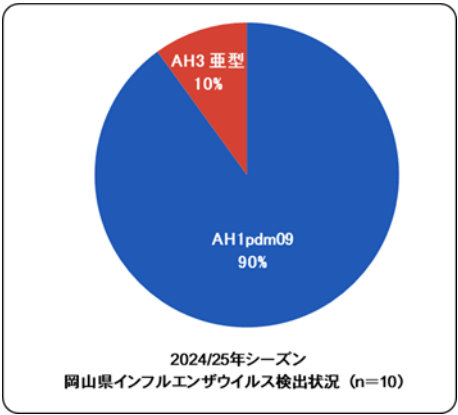


3. インフルエンザウイルス検出状況

今シーズンのうち、2025 年 6 月 8 日までに岡山県環境保健センターで検出されたインフルエンザウイルス 10 株の内訳は、AH1pdm09 が 9 株(90%)と最も多く、次いで AH3 亜型が 1 株(10%)でした。昨シーズンは、AH3 亜型が主流でしたが、今シーズンの主流行型は AH1pdm09 で、2 月の初旬には AH3 亜型も検出されました。

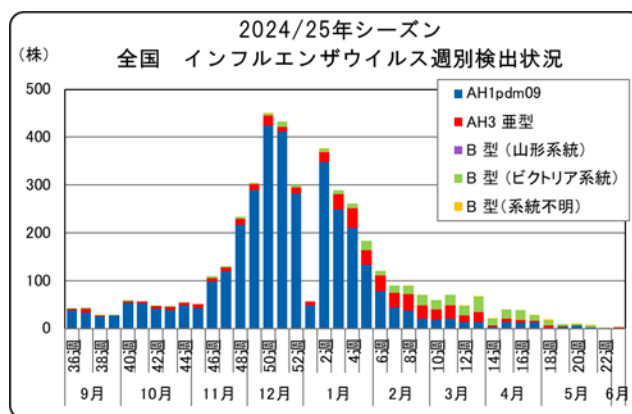
＜岡山県のインフルエンザウイルス検出状況＞

【2024/25 年シーズン】

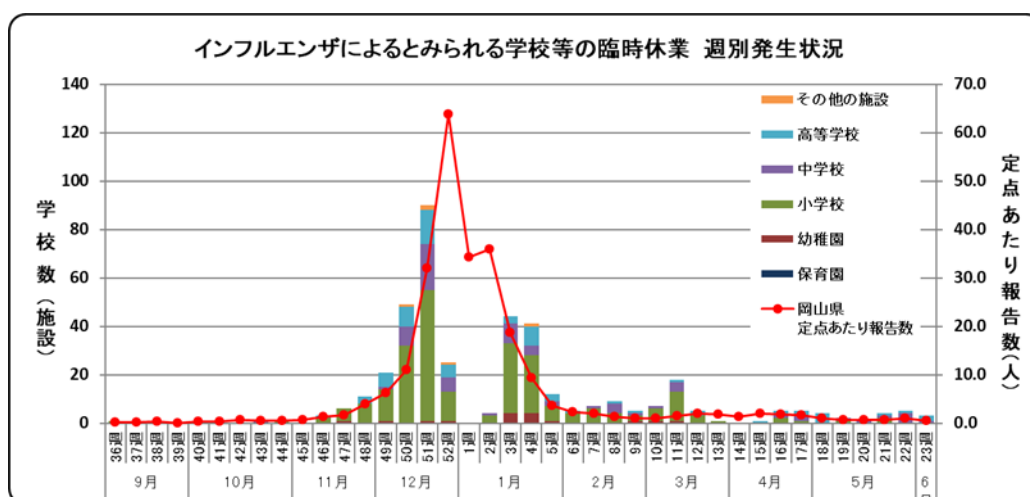


全国で今シーズン検出されたインフルエンザウイルスは、AH1pdm09 3,532 株(80.1%)、AH3 亜型 510 株 (11.6%)、B 型 349 株〔ビクトリア系統 333 株、山形系統 0 株、系統不明 16 株〕(7.9%)、A 型亜型不明 17 株 (0.4%)、C 型 1 株(0.02%) の順でした。今シーズンの主流行型は、岡山県と同様に AH1pdm09 でしたが、1 月下旬には AH3 亜型の割合が増え 2 月下旬には主流になりました。その後 3 月下旬からは B 型(ビクトリア系統)が主流となりました(2025 年 6 月 13 日現在)。

【2024/25 年シーズン】

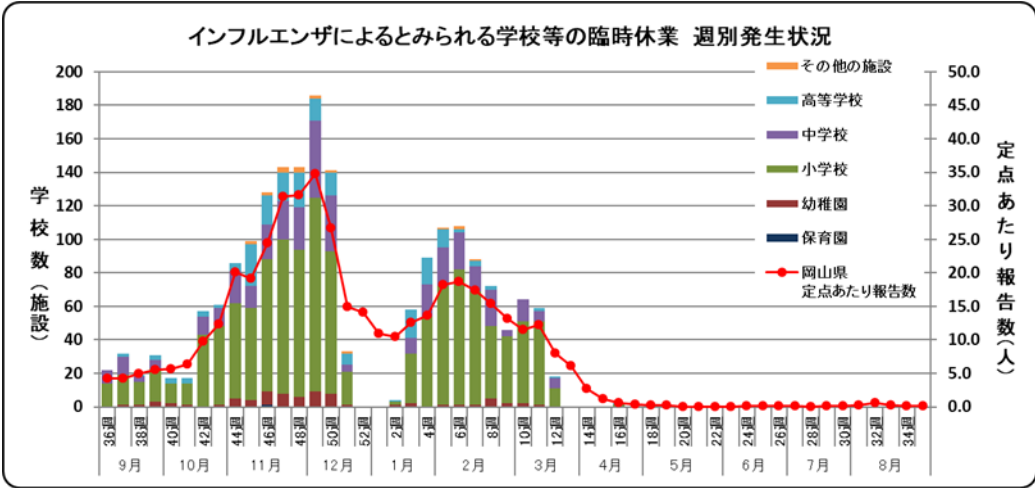


【2024/25 年シーズン】



	保育園	幼稚園	小学校	中学校	高等学校	その他
施設数	0	16	233	72	70	5

【2023/24 年シーズン】



	保育園	幼稚園	小学校	中学校	高等学校	その他
施設数	1	74	1273	372	193	18

5. インフルエンザによる入院患者報告数(県内基幹定点 5医療機関による報告)

今シーズン、2025 年 6 月 8 日までのインフルエンザによる入院患者数は、351 名であり、昨シーズン(211 名)から増えました。週別では、2025 年第 1 週(12/30～1/5)に、2011/12 年シーズンに入院患者数の集計を開始して以降最多の 84 名となりました。70 歳以上の入院患者数は、197 名であり、入院患者数全体の 56%を占めました。10 歳未満の入院患者数は61 名であり、入院患者数全体の 17%を占めました。昨シーズンと比較すると10 歳未満の割合が少なく、50 歳以上の割合が多くなっています。

また、インフルエンザ脳症(5 類感染症の全数把握対象疾患である急性脳炎の届出において、病原体としてインフルエンザウイルスの記載があるもの)の報告は、岡山県では9 名と、昨シーズン(2 名)から増加しました。全国では、インフルエンザ脳症の報告は178 名の報告があり、昨年シーズン(188 名)とほぼ同程度でした。

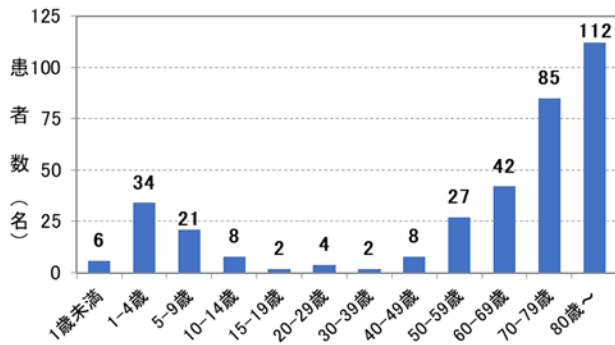
岡山県のインフルエンザ脳症は、インフルエンザ A 型を病原体とするものが8 名、型不明のものが1名でした。全国においても、インフルエンザ A 型を病原体とするものが86%を占めていました。

【2024/25 年シーズン(2024 年 9 月 2 日～2025 年 6 月 8 日)までの入院した患者の累計数】

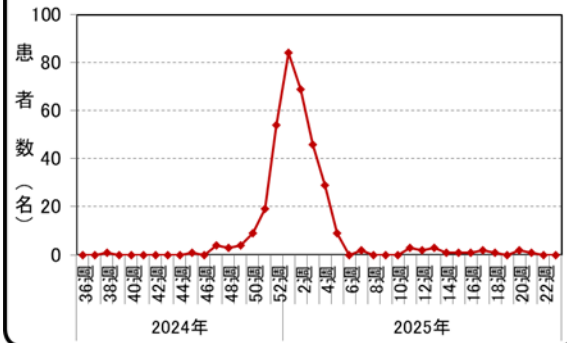
年 齢	1 歳 未満	1～4 歳	5～9 歳	10～ 14 歳	15～ 19 歳	20～ 29 歳	30～ 39 歳	40～ 49 歳	50～ 59 歳	60～ 69 歳	70～ 79 歳	80 歳 以上	計*
入院患者数	6	34	21	8	2	4	2	8	27	42	85	112	351
ICU 入室		1	3				1	3	7	4	7	5	31
人工呼吸器の利用		1	1				1	3	4	1	6	6	23
頭部 CT 検査(予定含)		2	2	2				1	3	4	10	17	41
頭部 MRI 検査(予定含)		7	6	1					1		3	2	20
脳波検査 (予定含)		3	3	2									8
いずれにも該当せず	6	25	11	6	2	4	1	5	19	34	68	87	268

* 重複あり

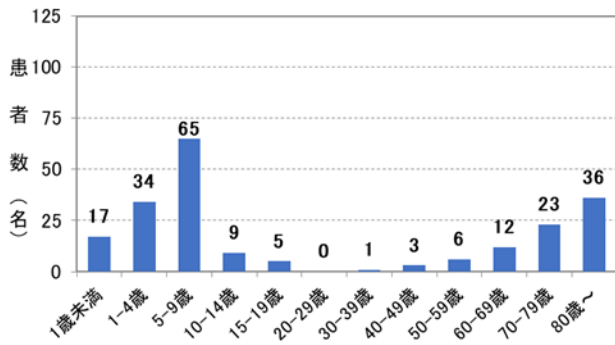
2024/25年シーズン 年齢別入院患者数



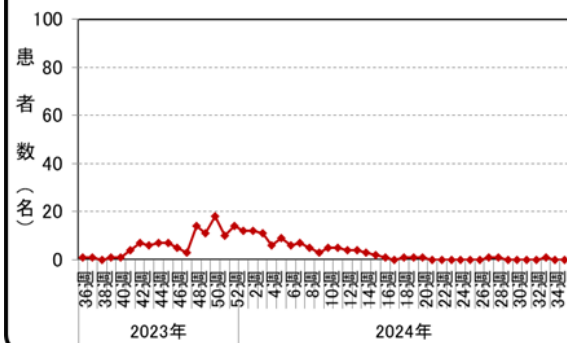
2024/25年シーズン 週別入院患者数の推移



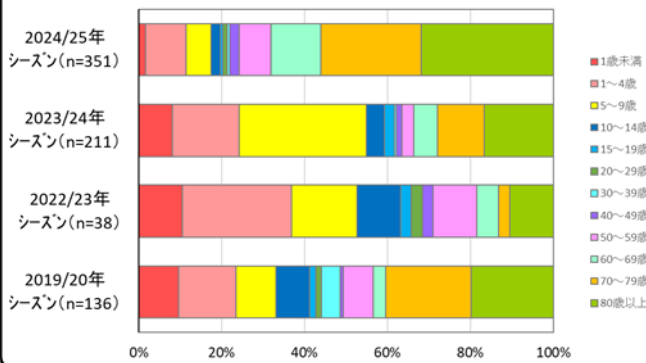
2023/24年シーズン 年齢別入院患者数



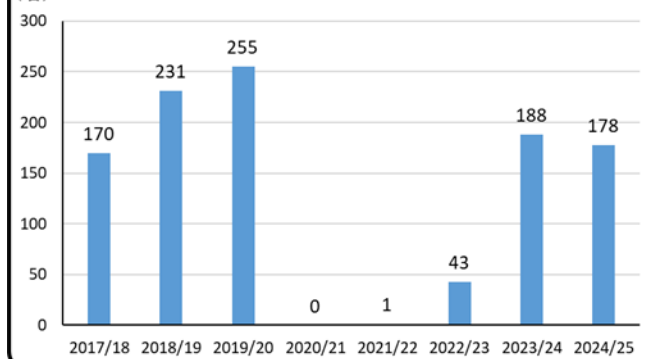
2023/24年シーズン 週別入院患者数の推移



インフルエンザによる入院患者の年齢階級別比較



シーズン別インフルエンザ脳症報告数推移(全国)



疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
インフルエンザ	5	0.10	—	—	3	0.25	—	—	2	0.40	—	—	—	—	—	—
COVID-19	54	1.08	15	0.83	20	1.67	3	0.75	8	1.60	6	1.50	2	1.00	—	—
急性呼吸器感染症	2457	49.14	958	53.22	634	52.83	158	39.50	490	98.00	111	27.75	35	17.50	71	14.20
RSウイルス感染症	13	0.46	1	0.10	11	1.57	—	—	—	—	—	—	—	—	1	0.33
咽頭結膜熱	10	0.36	7	0.70	—	—	—	—	—	—	2	1.00	—	—	1	0.33
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	31	1.11	13	1.30	7	1.00	1	0.50	5	1.67	1	0.50	—	—	4	1.33
感染性胃腸炎	156	5.57	70	7.00	20	2.86	15	7.50	29	9.67	7	3.50	1	1.00	14	4.67
水痘	5	0.18	4	0.40	—	—	—	—	1	0.33	—	—	—	—	—	—
手足口病	17	0.61	4	0.40	6	0.86	1	0.50	6	2.00	—	—	—	—	—	—
伝染性紅斑	25	0.89	13	1.30	6	0.86	2	1.00	3	1.00	—	—	—	—	1	0.33
突発性発しん	10	0.36	4	0.40	3	0.43	—	—	1	0.33	—	—	—	—	2	0.67
ヘルパンギーナ	42	1.50	20	2.00	10	1.43	1	0.50	9	3.00	—	—	—	—	2	0.67
流行性耳下腺炎	3	0.11	1	0.10	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	2	0.67
急性出血性結膜炎	1	0.08	—	—	—	—	1	1.00	—	—	—	—	—	—	—	—
流行性角結膜炎	1	0.08	—	—	—	—	1	1.00	—	—	—	—	—	—	—	—
細菌性髄膜炎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
無菌性髄膜炎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
マイコプラズマ肺炎	4	0.80	1	1.00	2	2.00	—	—	—	—	1	1.00	—	—	—	—
クラミジア肺炎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
インフルエンザ	5	0.10	—	—	3	0.25	—	—	2	0.40	—	—	—	—	—	—
咽頭結膜熱	10	0.36	7	0.70	—	—	—	—	—	—	2	1.00	—	—	1	0.33
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	31	1.11	13	1.30	7	1.00	1	0.50	5	1.67	1	0.50	—	—	4	1.33
感染性胃腸炎	156	5.57	70	7.00	20	2.86	15	7.50	29	9.67	7	3.50	1	1.00	14	4.67
水痘	5	0.18	4	0.40	—	—	—	—	1	0.33	—	—	—	—	—	—
手足口病	17	0.61	4	0.40	6	0.86	1	0.50	6	2.00	—	—	—	—	—	—
伝染性紅斑	25	0.89	13	1.30	6	0.86	2	1.00	3	1.00	—	—	—	—	1	0.33
ヘルパンギーナ	42	1.50	20	2.00	10	1.43	1	0.50	9	3.00	—	—	—	—	2	0.67
流行性耳下腺炎	3	0.11	1	0.10	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	2	0.67
急性出血性結膜炎	1	0.08	—	—	—	—	1	1.00	—	—	—	—	—	—	—	—
流行性角結膜炎	1	0.08	—	—	—	—	1	1.00	—	—	—	—	—	—	—	—

濃黄セルに赤字は岡山県地区別感染症マップにおいて、レベル3
薄黄セルに黒数字は岡山県地区別感染症マップにおいて、レベル2を示しています。

感染症発生動向調査 週情報 報告患者数 年齢別 (2025年 第26週 2025/06/23～2025/06/29)

疾病名	合計	-6ヶ月-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80～
インフルエンザ	5	-	-	1	-	1	-	-	-	-	-	1	-	-	2	-	-	-	-	-
COVID-19	54	-	2	4	1	-	-	-	-	-	-	-	4	3	3	8	7	4	11	7

疾病名	合計	0歳	1-4	5-9	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80～
急性呼吸器感染症	2457	231	1069	442	271	71	53	60	54	48	60	59	39

疾病名	合計	-6ヶ月-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20～
RSウイルス感染症	13	1	-	9	2	-	-	-	1	-	-	-	-	-
咽頭結膜熱	10	-	2	3	1	1	1	1	-	-	-	-	1	-
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	31	-	-	-	3	4	4	7	4	3	1	4	1	-
感染性胃腸炎	156	4	10	29	15	22	14	8	12	7	5	4	12	13
水痘	5	-	-	-	-	1	1	-	1	1	1	-	-	-
手足口病	17	-	-	8	2	1	-	-	3	1	1	-	1	-
伝染性紅斑	25	-	1	-	2	2	6	5	6	1	1	-	1	-
突発性発しん	10	-	2	5	1	2	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ	42	-	4	11	18	5	1	2	-	1	-	-	-	-
流行性耳下腺炎	3	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	1	-	-

疾病名	合計	-6ヶ月-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70～
急性出血性結膜炎	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-

疾病名	合計	0歳	1-4	5-9	10-14	15-19	20-24	25-29	30-34	35-39	40-44	45-49	50-54	55-59	60-64	65-69	70～
細菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	4	-	-	2	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

(- : 0)

保健所別

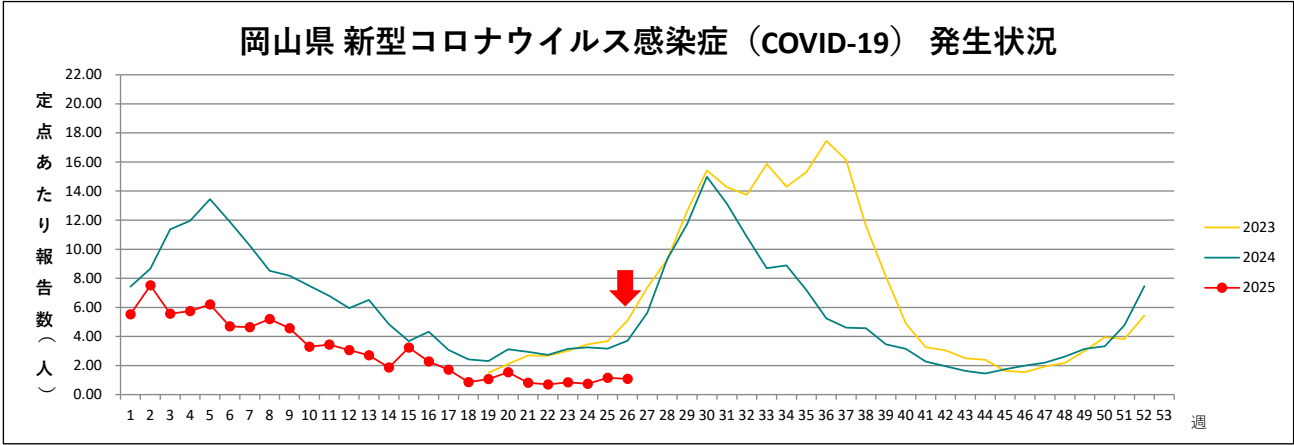
疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
新型コロナウイルス感染症（COVID-19）	54	1.08	15	0.83	20	1.67	3	0.75	8	1.60	6	1.50	2	1.00	-	-

（ - : 0 or 0.00 ）

年齢別

疾病名	合計	-6ヶ月	-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80～
新型コロナウイルス感染症（COVID-19）	54	-	2	4	1	-	-	-	-	-	-	-	-	4	3	3	8	7	4	11	7

（ - : 0 ）



保健所別

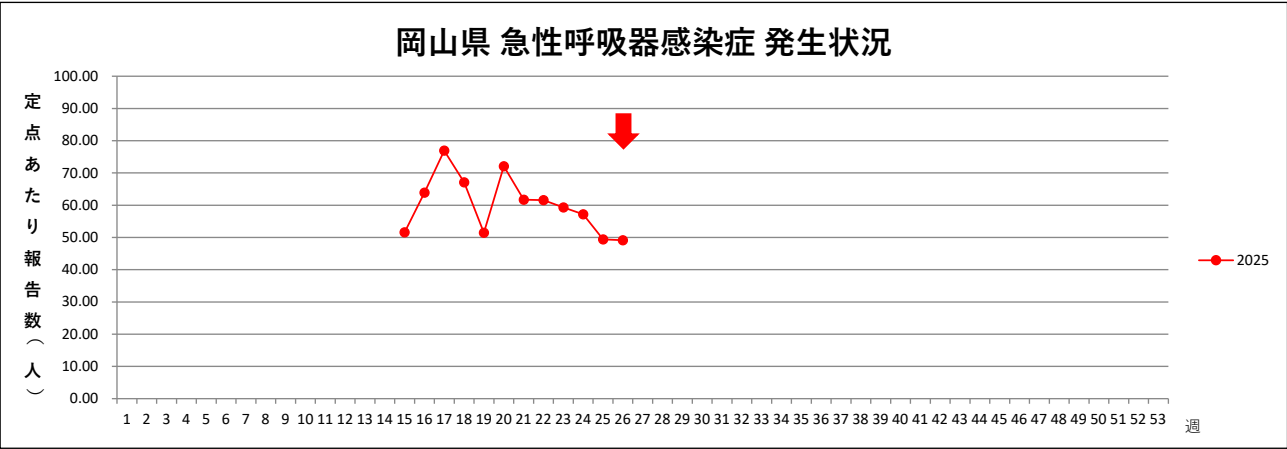
疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
急性呼吸器感染症（ARI）	2,457	49.14	958	53.22	634	52.83	158	39.50	490	98.00	111	27.75	35	17.50	71	14.20

（ - : 0 or 0.00 ）

年齢別

疾病名	合計	-12ヶ月	1-4	5-9	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80～
急性呼吸器感染症（ARI）	2,457	231	1,069	442	271	71	53	60	54	48	60	59	39

（ - : 0 ）



全数把握 感染症患者発生状況

2025 年 26 週

[illegible]

